

Merry
christmas



吉田 眞

〔クリスマス・メッセージ〕



クリスマスの希望

東日本大震災が起こって
から九カ月が経とうとして
います。未だにその被害の
傷跡がたくさんの場所に
残っています。大きな被害
を受けた市町村の復興はま
だまだ先のように見えま
す。そのような困難の中で
心がくじけ、前に進めない
ように感じることがあるに
違いありません。そのよう
な時、人を前へと進める力
は、将来への希望が見える、
ということではないでしょ
うか。

救世軍も、少しでも希望
をもっていた多くことがで
きるようにと、いろいろな
支援をしてきました。これ
からもその支援は継続され
るでしょう。

さて、クリスマスは、イ
エス・キリストの誕生を祝
う日であり、まさに将来に
希望を与える出来事だった
のです。当時、キリスト
が生まれたユダヤの国は、
ローマの属国であり、被占
領国としての苦しみに遭っ
ていました。政治は墮落し、
貧富の差は激しく、弱者が
虐げられていました。宗教
的には、宗教家たちが墮落
し、本当の心の宗教が低迷
していました。人々は、そ
のような状況の中で、救世

主（メシア）の到来を待ち
望んでいました。七百年も
前から救世主の到来が預言
されていたからです。彼ら
の期待するメシアは、ロー
マという占領国を打ち破
り、ユダヤの独立と繁栄を
もたらす人だったのです。
ところが、実際に現れた救
世主（イエス・キリスト）は、
この世の王様の家にはな
く、宮殿での一室ではな
く、きらびやかな産着を着
てではなく、小さな村ベツ
レヘムの外れの、普通の宿
屋どころか家畜小屋の片隅
で、粗末な布にくるまれて
生まれました。

彼は、聖書の表現を借り
るならば、「神の子であつ
たのにそれに固執しないで、
人間の一人として、人間空
間に生まれた」のです。そ
れは、普通の人間のもつ悲
しみや苦しみ、孤独や疎外
感、貧しさや虐げ、それら
のすべてをわたしたち人間
と共有するためでした。

苦しみの中にあるとき、
一番励まされるのは、同じ
苦しみや悲しみを共有して
くれる人がいることではな
いでしょうか。キリストは、
まさにわたしたちの悲しみ
や苦しみを共有してくださ
るのです。さらに、それだけ

にはとどまりませんでした。
三十年余の生涯の後、彼
は、十字架に架かって死ん
だのです。聖書によれば、そ
れは、わたしたち人間の罪
（自己中心的な思いや行動より
大きな存在である神を認めない
こと）に対する罰の身代わ
りとなるためでした。その
結果、人間には、罪を赦さ
れ、心の平安を得る道が開
かれたのです。

キリストが生まれたとき、
ユダヤ人たちが期待したの
は、国家の回復、目に見え
る繁栄でした。同じように
わたしたちも、目に見える
豊かさを求めてしまいます
が、本当の安心、平和は、
心の中にあるべきもののなの
です。イエス・キリストの
誕生（クリスマス）は、その
心の平安と豊かさを得るこ
とができるということの、
神様が与えてくださったし
るしなのです。それは、キ
リストにおいて、父なる神
様がわたしたちの価値を認

め、ありのままのわたした
ちを受け入れてくださるこ
とが、約束されているから
なのです。

苦しんでいる人がいるで
しょうか。心に平安がない
人がいるでしょうか。自分
の行き先がわからない人が
いるでしょうか。誰も自分
をわかってくれないと言
う人がいるでしょうか。心
中に不平ばかりが起こって
きている人がいるでしょ
うか。何事につけても、感謝
ができない人がいるでしょ
うか。

もしあなたがその人の一
人なら、クリスマスはあな
たに希望を約束します。な
ぜなら、二千年前に生まれ
たキリストは、今も、信じ
る者にとって、その約束を
受け入れる者にとって、そ
れらに回答を与えてくださ
る救世主であるからです。
〔救世軍士官（伝道者）司令官〕





「神様を信じること」が当たり前ではなくて、感謝すべきことだということに気づかされていったのです。更に、こんな疑問が浮かびました。私が98%クリスチャンのキリスト教国で生まれたために、選択肢がなく、刷り込まれたクリスチャンの信仰を、本物だと思込んでいたのか、本物の信仰に生きてきたのかどうか？ 今、一人の大人として、キリスト教の神様とこの世の中が勧めるほかの神たちを選択することができるとしたら、私の主としてキリスト教の神様をも

へ逃げたかったです。それで、日本に来る決心をしたのでした。

ただ、逃げたくて、何も知らずに、日本に来ました。そこで、私は、まず、日本の文化の壁にぶつかりました。ショックでした。神様を信じない人々の文化の乱れに、驚きを隠せませんでした。そのおかげで、私は、かつてないほどに、信仰について深く考えることが多くなりました。

「完璧でなくてもいい」ということでした。自分の力ではどうやっても神様の国に入ることができない、完璧でない人間のために、神様は独り子のイエスをこの世に送り、身代わりに十字架に架けて罰し、天国への道を開いてくださった。イエス様の身代わりの十字架によって私の罪が赦された！ 本当に必要なことは、それをただ信じることでした。たった、それだけ！

一人ぼっちで部屋の中にいた私は、コンピュータの前でガクリと膝を落として、我を忘れて泣きじゃくりました。昔の苦しみに泣いて、神様から逃げようとして数年間も無駄にしたことを泣いて、神様に開いていただいた新しい人生への感謝の気持ちで泣いていました。それは、やっと、私アマリアのために死んでくださったイエス様と一緒に生きていくという、ずっと願ってやまなかった新しい人生が開かれたことへの感謝の涙でした。ハイトクの救い、でも言いましようか。

イエス様を、私の人生の主として



アマリア・ネクラエシュさんプロフィール

ルーマニアに生まれる。ブカレスト音楽大学でオペラを専攻。修士学位を取得。George Enescu 交響楽団（ルーマニア最高峰の交響楽団）や、ルーマニアラジオ合唱団でソプラノ歌手として活躍。国際的な音楽家たちと共演し、イタリア、オーストリア、ドイツ、イスラエル、スイスなど海外への活動を広げ、小澤征爾氏の指揮でも歌っている。1999年、ストレスで声が出なくなり、専門医から歌手活動を続けることは無理、と宣告される。祖母の祈りと懸命な助力を得て、奇跡的に回復し、オペラの舞台にカムバック。

2002年、来日。札幌に拠点を置き、ライブ活動に取り組む。2005年、福音に接して明確な救いの体験をし、クリスチャンシンガーとして再スタート。各地で歌と証しを通して福音を伝えている。また、アニメ映画のオリジナルサウンドトラックにシンガーとして起用されたり、地方テレビのコマーシャルに出演したり、その賜物を発揮して活躍している。

wannaflyministry@yahoo.co.jp

「完璧でなくてもいい」ということでした。自分の力ではどうやっても神様の国に入ることができない、完璧でない人間のために、神様は独り子のイエスをこの世に送り、身代わりに十字架に架けて罰し、天国への道を開いてくださった。イエス様の身代わりの十字架によって私の罪が赦された！ 本当に必要なことは、それをただ信じることでした。たった、それだけ！

その真理は、

「完璧でなくてもいい」ということでした。自分の力ではどうやっても神様の国に入ることができない、完璧でない人間のために、神様は独り子のイエスをこの世に送り、身代わりに十字架に架けて罰し、天国への道を開いてくださった。イエス様の身代わりの十字架によって私の罪が赦された！ 本当に必要なことは、それをただ信じることでした。たった、それだけ！

「なぜ日本に来たの？」と聞かれます。聞いた人々は、ロマンティックな理由か、日本に興味があった、日本に来ることが夢だった、というような答えを期待するようです。けれど、私の答えは期待どおりのものではありません。シンプルで重いものです。逃げたかったです。過去の苦しみからできるだけ遠く



家族と共に

《信仰の体験談》

98%クリスチャンの国から来て 1%クリスチャンの国で 神様を知りました



アマリア・ネクラエシュ

神様のユーモアのセンスは、ときどき、「とんでもなくすごい」ものです。98%「クリスチャンの国」で生まれて、そして、自分の家族もその98%の中にいるなら、神様を知ること、神様の救いを知ることは当然だと期待するでしょう。しかし、いつもそうとは限りません。少なくとも、私のケースは、違いました。

生い立ちと信仰

私は、強く信仰生活を守るカトリックの信徒の家に生まれ、毎週日曜日に教会に行く生活をしていました。その上に、私は、真剣に神様を愛していました。

しかし、覚えている限り、私は寂しいクリスチャンでした。私が育った教会のほとんどの人がそうであったように……理由は、簡単です。私の教会の信徒たちは、一人も天国に行ける希望をもっていないからです。寂しいことでしょうか？ そうです。けれど、それは事実でした。なぜなら、天国に行くためには、私たちは完璧でなければならぬ、と教えられていたからです。完璧であるためには、罪を一つも犯してはならないし、もし罪を犯したならすぐに神父様に懺悔して赦しを受けなければなりません。天国は、神様の御国ですから、罪をもったまま入ることはできないのです。

しかし、そうすると、天国に行ける可能性が、とても低くなるのではないのでしょうか？ ……だって、神父様に罪の告白をして赦されてから、まばたきするほどの間に死んで天国に入るチャンスなんて、とても少ないからです。人間

は、ちよつとの間に罪を犯してしまうんです。例えば……教会で説教を聞いている時、

「この神父の説教は何て長いんだ！」

とか、ちよつとでも違うことを考えずにいるなんて、とてもできないでしょう。でも、それだって罪です。神様に認められるような価値のある人間になりたいとどんなに努力をしても、私の罪深い本性は、それを邪魔してしまうのです。どんなに神様を喜ばせ、誇りに思ってもらえるような完璧な人間になりたいと思っても、私には無理でした。簡単に、罪を犯してしまいました。しかも、いつだって、そばに神父様がおられるわけではないので、次の懺悔の時まで、罪悪感と地獄への恐れを抱えながら過ごすしかありませんでした。

そうするうちに、私は、他のたくさんの人たちがそうであるように、どんな天国に行く希望を失ってしまいました。次第に、信仰生活そのものをあきらめていきました。そして、この世が勧める楽しいことに心が惹かれていきました。だって、どんなに頑張っても、神様を知らない人たちと同じ地獄へ行くしかないなら、

努力する意味はないでしょう!! もろろん、法律に反することや、「不良」の生き方には興味がなかったの、一般的な世の中から見れば、「いい人」として生きていきましたが……。

転機

そんな私に、信仰の転機が訪れました。

私は、国立音楽大学を卒業して、プロのオペラシンガーになりました。結婚しましたが、とても辛い離婚の経験をするようになりました。そのため声を使い、自分を失いかけて……、専門医からは、プロとして二度と歌えないと言われました。絶望の日々を過ごすことになりましたが、奇跡的に声が戻りました。そうした様々なことがあつてから、日本に行くことにしたのです。

ちなみに、よく、「なぜ日本に来たの？」と聞かれます。聞いた人々は、ロマンティックな理由か、日本に興味があった、日本に来ることが夢だった、というような答えを期待するようです。けれど、私の答えは期待どおりのものではありません。シンプルで重いものです。逃げたかったです。過去の苦しみからできるだけ遠く

クリスマスストーリー

Christmas story

クリスマス (Christmas) は、キリストのお祭り (Christ + mas) という意味で、イエス・キリストの誕生を祝う日として、毎年、世界中で守られています。このイエス・キリストは、今から2000年以上も前に生まれた人物ですが、21世紀に生きる私たちに、どのようにかわりがあるのでしょうか。一番初めのクリスマスの出来事を見て、考えましょう。

1 イエス・キリストの誕生は、その700年以上前から預言されていました。イザヤという預言者の言葉が聖書に記されています。

「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。
ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。
権威が彼の肩にある。
その名は、『驚くべき指導者、力ある神 永遠の父、平和の君』と唱えられる。」



2 それから長い時がたちました。ある日、ユダヤのナザレ村に住むマリアという女性のところに、天使ガブリエルが現れ、彼女が神の力で身ごもり、救い主となる男の子を産む、と告げました。マリアは大工のヨセフと婚約中で、様々な問題が予想されましたが、「神にはできないことはない」との天使の言葉を信じ、このように返事をしました。



「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」

3 そのころ、ユダヤの国を治めていたローマ帝国の皇帝アウグストゥスが、領土に住むすべての人に、それぞれ自分の故郷に帰って住民登録をするよう命じました。ヨセフも、身重のマリアを連れて先祖ダビデの町ベツレヘムへ向かって、100キロ以上もの長い旅に出ました。



5 イエスの誕生を一番最初に知らされたのは、ベツレヘムの近くの野原で夜を徹して羊の番をしていた羊飼いたちでした。突然、天使が現れ、「わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」と告げたのです。これを聞いた羊飼いたちはすぐに出かけ、家畜小屋を探し当て、生まれたばかりのイエスを礼拝しました。



4 二人がベツレヘムに着いた時、宿屋はどこも満員で、泊まれる所はありませんでした。やっと見つけたのは、牛やロバのいる家畜小屋。その晩、イエス・キリストはお生まれになりました。約束されていた救い主は、家畜のえさを入れる飼料おけに寝かされたのです。



6 そのころ、遠く東のほうからベツレヘムを目指して旅を続ける一団がありました。占星術の学者たちです。偉大な指導者、世界の王の誕生を告げる星を見つけ、その星に導かれてはるばるやって来たのです。やがて学者たちはイエスがいる家を探し当てると、喜びにあふれ、黄金、乳香、没薬という高価な品々を贈り物として献げ、礼拝しました。



7 こうして誕生したイエス・キリストは、ご自分が「神の子」であること、悔い改めて神を信じるように、と宣べ伝えるようになりました。病む人をいやし、孤独に苦しむ人の友となり、多くの人々に神の愛を知らせました。しかし、何一つ罪を犯さなかったにもかかわらず、十字架に架けられ、処刑されたのです。それは、神を信じないで自分勝手に歩むすべての人の罪の身代わりでした。しかし、墓に葬られて3日目、イエスは死の力を打ち破ってよみがえったのです。

